

BMCN リミテッド状況相談室 ～日本人保護者対象質問票の開発～

島田・平塚

(1) 開発の目的

BMCNリミテッド状況相談室での相談対応にあたり、保護者の主訴や対象児の言語面、認知発達面の特性について総合的、多面的な観点から情報収集を行い、ニーズに適した指導・支援方法や検査・訓練機関についての情報提供を行う。

(2) 相談対応の流れ



(3) 質問票の回答形式： 相談者による記述

(4) 質問項目

- | | |
|-----------------|--|
| ① 子どもの年齢、学年、国籍 | ⑤ 生育歴（移動歴、居住地の言語、家庭や養育・教育機関の言語、学習状況、家庭の変化） |
| ② 主訴 | ⑥ 自由記述欄 |
| ③ 家庭の様子 | |
| ④ ことばや体の発達について、 | |

(5) 作成にあたって留意したこと

- ① 移動と言語環境の変化をもとに、言語の使用状況、発達の問題、学習の状況の三方向から状況を把握できること。
- ② 相談員が相談者への必要な手立てを予測することができること。
- ③ 保護者の心情に配慮した表現であること。
- ④ 個人情報保護（質問票の管理）に十分留意したものであること。

(6) 質問票を使ってみて～相談者の声～

書いてみて、子どもの状況について自分で振り返ることができてよかった。

状況を文字化することで自分の気持ちや考えに整理がつき、書き終わったらほっとした。

(7) 考察

- ① 相談者は相談票に記入することで事象を客観視できるようになり、心の整理がつくとわかった。
- ② 対面の相談対応であれば相手の表情や返答から言葉を選んで対応できるが、メールでは相談者の発達や障害についての理解の程度や障害受容についての把握が難しい。
- ③ メール相談では情報提供後の経過や展開のフィードバックが得にくい。

(8) 課題

- ① テレビ電話などを使っての対面相談の可能性
- ② 国内在住 JSL 児童生徒の相談対応のための外国人保護者や学校を対象とした質問票の作成